

青銅器の世界

文字を習う

〈鑑賞〉中国近代の篆書、隸書

あの人が残した書

北朝の書の魅力

落款を考える

書と美術・工芸との関わり

古筆に見る小倉百人一首

青銅器の世界

青銅器は、中国では少なくとも二里頭文化期（紀元前二〇〇〇年頃）には製造されており、戦国時代（紀元前五、前三世紀）以降に鉄が普及するまで、祭器や武器として盛んに用いられた。当時は権力の象徴として重視され、冊の軽重を問う（春秋左氏伝）という言葉も生まれました。

用途に応じたさまざまな形状があり、例えば、供え物をしたり煮炊きをするための食器では、三本の足を持つ罍や、大きな取っ手をもつ簋などが造られました。また、酒を入れる酒器では、持ち手のついた盃（4ページ）や、口が上部に広がる尊（8ページ）などがあります。表面には饕餮文など神・鳥獣をモチーフとした文様や、銘文が刻み込まれています。

青銅器は、時間がたつと錆（緑青）により緑色に覆われますが、原料は銅と錫の合金であり、もとは金色に輝いていました。細密な文様を鋳込む場合は、鋳をゆわし、高温で溶かした原料（湯）の粘度を低くするなどの工夫がなされていたようす。

銘文は、青銅器の器内や蓋の裏に施されます。最初は部族などを示す記号が見られる程度でしたが、殷末期（紀元前十一世紀頃）には、ある程度の長さの文章も鋳込まれるようになりまし。改変を防ぐ目的からか、凹線で鋳込まれることがほとんどで、それに沿って字の配置を整えるマスのが凸線で施されることもあります。



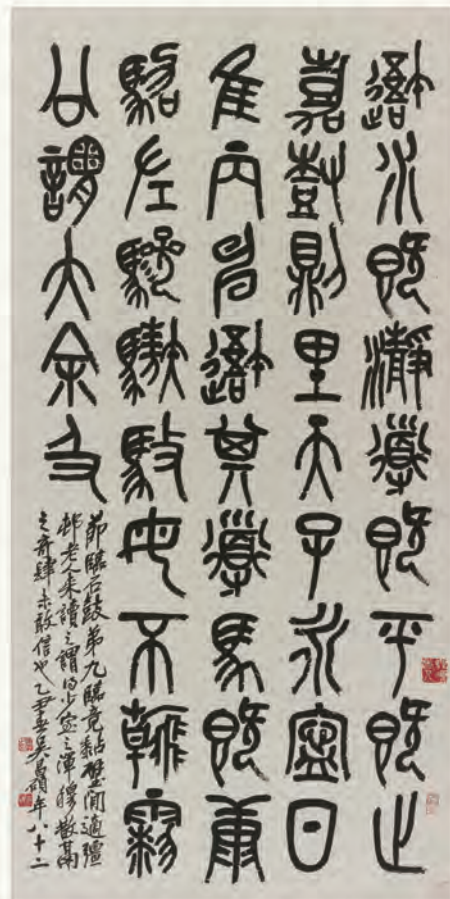
泉屋博物館蔵



蓋の裏の銘文

『書道Ⅱ』 10ページ

中国近代の篆書、隸書



吳昌碩 (1844~1927)

東京国立博物館蔵 (140.4×69.4cm)

『書道Ⅱ』 28~29ページ

古筆に見る小倉百人一首



小倉色紙 鎌倉時代 藤原定家筆
五箇葉美術館蔵 縮小
あひまのちのころにくらぶれば
むかしはものもおもはざりけり
（小倉百人一首 四十三番 藤原歌志）



本阿弥切古今集 平安時代 伝小野道風筆
京都国立博物館蔵 縮小
すみのかきしよるなみ夜へや／ゆめのかよひちのめよく宛
（小倉百人一首 十八番 藤原歌行）

『書道Ⅱ』 76~77ページ

教師用指導書

書道Ⅰ 教授資料 定価 13,200 円 (本体 12,000 円 + 税)

- 書道Ⅰ 学習指導の研究 B5 判
单元ごとに学習展開例を詳しく示し、留意点と評価の観点を例示しました。
- 書道Ⅰ ワークプリント集 ①② 各 B4 判
学習記録、各古典の拡大手本、集字資料、補充資料他。
- 書道Ⅰ 付属 DVD-ROM
教授用動画、ワークプリント集のデータ、教科書本文データ、年間学習指導計画例、单元例、シラバス（例）他。

書道Ⅱ 教授資料（予定）

- 書道Ⅱ 学習指導の研究 B5 判
单元ごとに学習展開例を詳しく示し、留意点と評価の観点を例示しました。
- 書道Ⅱ ワークプリント集 ①② 各 B4 判
学習記録、各古典の拡大手本、集字資料、補充資料他。
- 書道Ⅱ 付属 CD-ROM
ワークプリント集のデータ、教科書本文データ、年間学習指導計画例、单元例、シラバス（例）他。